

2. 就学前・就学児童の子育てに対する家庭のニーズ

(1) 子育て当事者（子育て家庭）に対する施策の重要性

核家族化の進展や、地域のつながりの希薄化など子育て家庭をめぐる環境が変化している中で、子育て当事者（子育て家庭）が、経済的な不安や孤立感を抱くことなく、健康で、自己肯定感とゆとりをもって、子どもに向き合えるようにすることが、子ども・若者の健やかな成長のために重要であり、①子育てや教育に関する経済的な負担の軽減、②地域における子育て支援、③共働き、共育ての推進、④ひとり親家庭への支援といった、子育て当事者（子育て家庭）への施策に丁寧に取り組むことが重要です。

このため、子育て当事者へのアンケート調査を実施し、子育てに対する意識やニーズについてとりまとめ、主な調査結果を以下に示しています。

▶ 子どもの人数等

子どもの人数については、「2人」の割合が最も高く、次いで「1人」「3人」となっています。また、子どもが何人ほしいかについては、「2人」の割合が最も高く、次いで「3人」「1人」「4人以上」となっており、実際の子どもの数との差がみられています。

もう1人以上子どもを産みたいと思うかについては、前回調査と比べると、「持ちたいと思う」の割合が減少し、「持ちたいと思わない」の割合が増加しています。

また、もう1人以上の子どもを生みたいと思う環境については、「収入が増えれば持ちたい」がの割合が最も高く、次いで「保育所など子どもを預かってくれる環境が整えば持ちたい」となっています。

▶ 子育て（教育を含む）に日常的にかかわっている人や施設及び子育てや教育についての相談先

子育て（教育を含む）に日常的にかかわっている人や施設については、「父母ともに」の割合が最も高く、次いで「母親」「認定こども園」「保育所」「祖父母」となっています。また、子育てや教育についての相談先については、「配偶者」の割合が最も高く、次いで「ご自身や配偶者の親、親せき、（同居している）家族」「友人や知人」となっています。

▶ サービスの利用状況等

平日の施設やサービスの利用状況については、前回調査と比べ、「利用している」の割合が増加しています。定期的に利用している施設やサービスについては、「認可保育所」の割合が最も高く、次いで「認定こども園」「幼稚園（通常就園時間）」となっています。

施設やサービスを利用している理由については、前回調査と比べると、「保護者が働いている」の割合が増加し、「子どもの教育や発達のため」の割合が減少しています。

第2章 大阪府における現状と課題について

2. 就学前・就学児童の子育てに対する家庭のニーズ

▶ 小学校低学年の間に放課後過ごさせたい場所

前回調査と比べると、「放課後児童クラブ」の割合が増加し、「習い事（ピアノ教室、スポーツクラブ、学習塾など）」の割合が減少しています。

▶ 充実してほしい子育て支援サービス

「育児休業給付、児童手当の拡充、扶養控除の維持などの子育て世帯への経済的援助の拡充」の割合が最も高く、次いで「親子が安心して集まれる公園などの屋外の施設を整備する」「小児救急など安心して子どもが医療機関を利用できる体制を整備する」となっています。

▶ 外出する際に困ること

「買い物や用事などの合間の気分転換に子どもを遊ばせる場所がない」の割合が最も高く、次いで「小さな子どもとの食事に配慮された場所（店）が少ない」「自動車の通行が多いにもかかわらず歩道や信号がない道路が多いので心配」となっています。

▶ 近所で日常的にちょっとした子どもの話や世間話をする人の有無

近所で日常的にちょっとした子どもの話や世間話をする人の有無については、前回調査と比べると、「いる」の割合が減少し、「いない」の割合が増加しています。

▶ 子育てを楽しんでいるか及び子育てを楽しんでいる人の有効な子育て支援・対策

子育てを楽しんでいるかについては、前回調査と比べると、「楽しいと感じることの方が多い」の割合が増加し、「楽しいと感じることとつらいと感じることが同じくらい」の割合が減少しています。

また、子育てを楽しんでいる人の有効な子育て支援・対策については、「仕事と家庭生活の両立ができる労働環境の整備」の割合が最も高く、次いで「子育てしやすい住居・まちの環境面での充実」「保育サービスの充実」となっています。

▶ 子育てのつらさを解消するために必要な支援・対策

子育てのつらさを解消するために必要な支援・対策については、「仕事と家庭生活の両立ができる労働環境の整備」の割合が最も高く、次いで「保育サービスの充実」「子育てしやすい住居・まちの環境面での充実」となっています。

2. 就学前・就学児童の子育てに対する家庭のニーズ

➤ 日常悩んでいること、気になること

子どもに関することについては、「子どもの教育に関すること」の割合が最も高く、次いで「病気や発育発達に関すること」「食事や栄養に関すること」となっています。

子育て当事者自身に関することについては、「子育てにかかる出費がかさむこと」の割合が最も高く、次いで「仕事や自分のやりたいことなど自分の時間が十分取れないこと」「子育てによる身体の疲れが大きいこと」となっています。

➤ 子育てが地域の人に支えられていると感じるか

前回調査と比べると、支えられていると「感じる」の割合が減少し、支えられていると「感じない」割合が増加しています。

➤ 特に誰から支えられていると感じるか

前回調査と比べると、「同じ世代の子どもを持つ保護者」と「近所の人」の割合が減少し、「幼稚園、保育所、地域子育て支援拠点などの職員」の割合が増加しています。

➤ 誰から支えてほしいと感じるか

「同じ世代の子どもを持つ保護者」の割合が最も高く、次いで「幼稚園、保育所、地域子育て支援拠点などの職員」「市役所（町役場／村役場）の職員」となっています。

➤ 子育ての負担を軽減するのに有効だと思われる支援やサービス

子育ての負担を軽減するのに有効だと思われる支援やサービスについての、1番目と2番目の合計は、「育児用品（紙おむつ、2人乗せベビーカーなど）への経済的支援」の割合が最も高く、次いで「幼稚園や保育所、認定こども園などに通園するのに必要な食材料、日用品、その他諸費用など無償化の対象とならない経費への支援」「理由を問わず子どもを一時的に預かってくれるサービス」となっています。

【市町村ニーズ調査】子育て当事者へのアンケート調査の概要

1 調査の目的

大阪府子ども計画策定のための基礎資料として、大阪府内43市町村が行ったニーズ調査（市町村ニーズ調査）結果を大阪府全体版としてとりまとめ、集計・分析したもの

2 調査対象

府内43市町村（政令市・中核市を含む）の就学前の子どもをもつ保護者

3 調査期間

令和5年10月から令和6年4月

4 回収状況

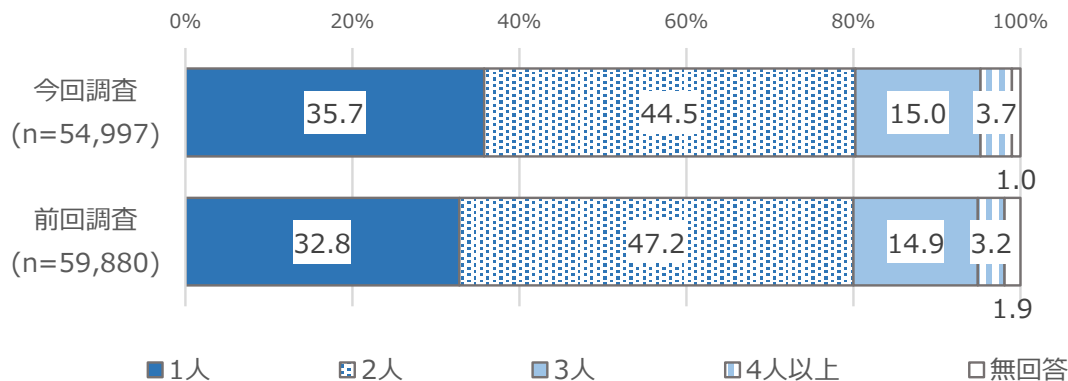
配布数	有効回答数	有効回答率
130,799人	57,720人	44.1%

【市町村ニーズ調査】 主な調査結果

◆問4ー子どもの人数

子どもの人数は、「2人」が44.5%で最も高く、次いで「1人」が35.7%、「3人」が15.0%となっています。

[図表2-1-3 子どもの人数]

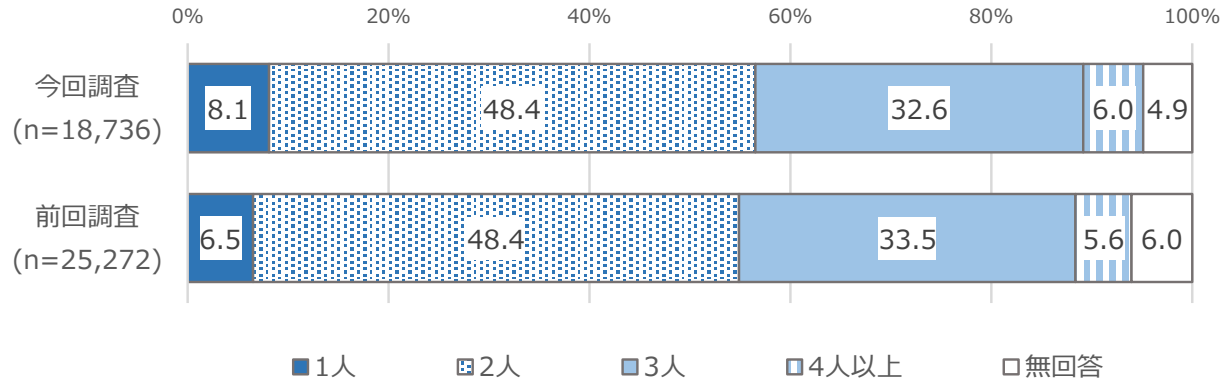


【市町村ニーズ調査】 主な調査結果

◆問5ー子どもが何人ほしいか

「2人」が48.4%で最も高く、次いで「3人」が32.6%、「1人」が8.1%、「4人以上」が6.0%となっています。

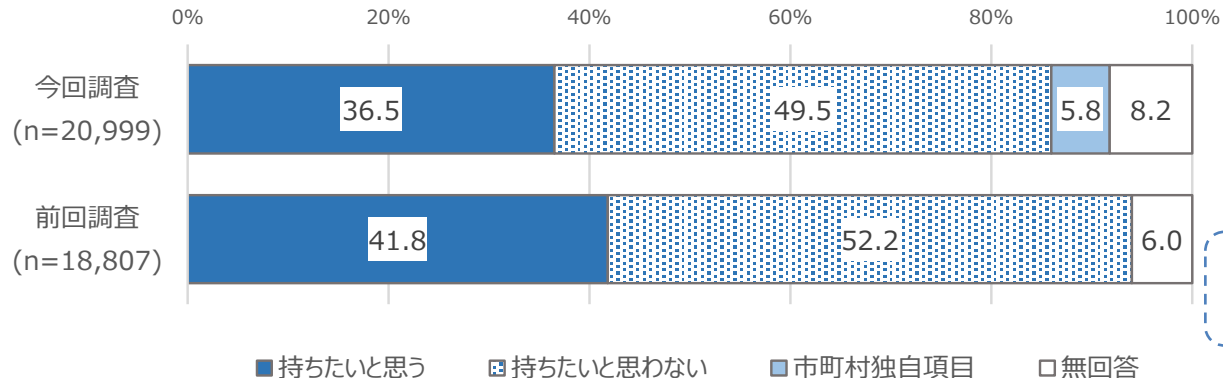
[図表2-1-5 ほしい子どもの人数]



◆問6ーもう1人以上子どもを産みたいと思うか

「持ちたいと思う」が36.5%、「持ちたいと思わない」が49.5%となっています。また、前回調査と比べると、「持ちたいと思う」の割合が減少し、「持ちたいと思わない」の割合が増加しています。

[図表2-1-6 1人以上の子どもを産みたいか]



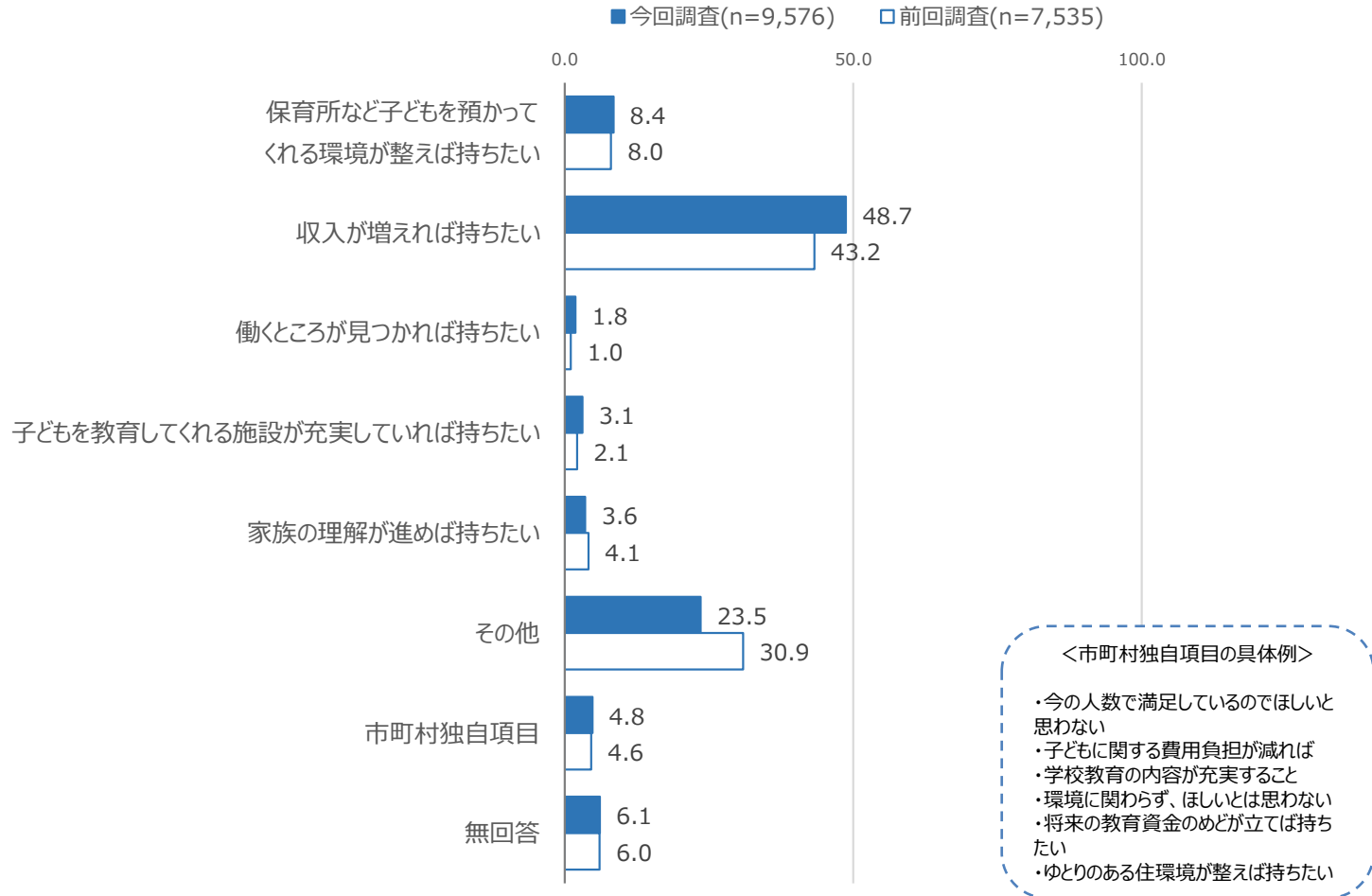
<市町村独自項目の具体例>
・環境が整えば持ちたいと思う

【市町村ニーズ調査】 主な調査結果

◆問6-1-もう1人以上の子どもを生みたいと思う環境

「収入が増えれば持ちたい」が48.7%で最も高く、次いで「保育所など子どもを預かってくれる環境を整えれば持ちたい」が8.4%、「家族の理解が進めば持ちたい」が3.6%、「子どもを教育してくれる施設が充実していれば持ちたい」が3.1%、「働くところが見つければ持ちたい」が1.8%となっています。

[図表2-1-7 もう1人以上の子どもを生みたいと思う環境]

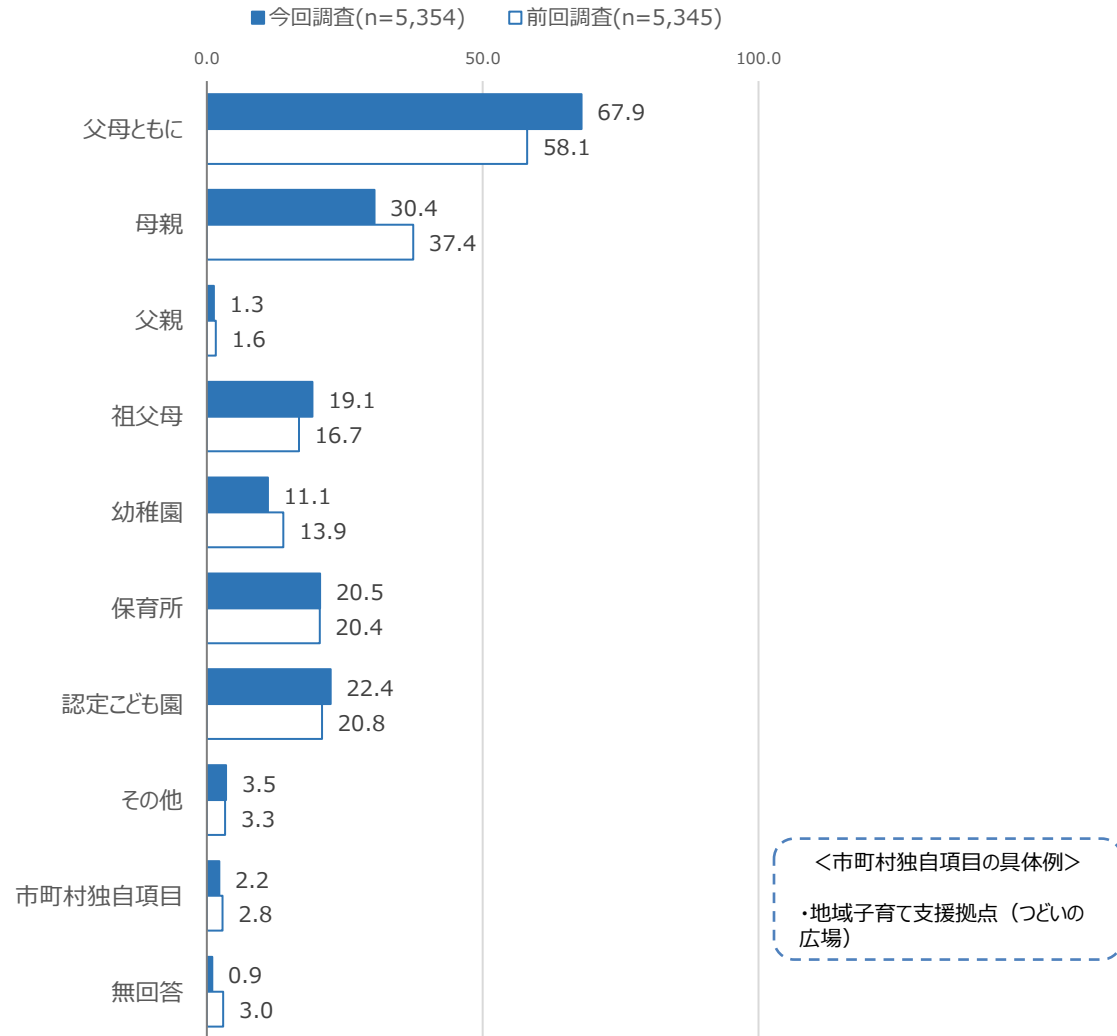


【市町村ニーズ調査】 主な調査結果

◆問9ー子育て（教育を含む）に日常的にかかわっている人や施設

「父母ともに」が67.9%で最も高く、次いで「母親」が30.4%、「認定こども園」が22.4%、「保育所」が20.5%、「祖父母」が19.1%となっています。

[図表2-1-10 子育て(教育を含む)に日常的にかかわっている人や施設]

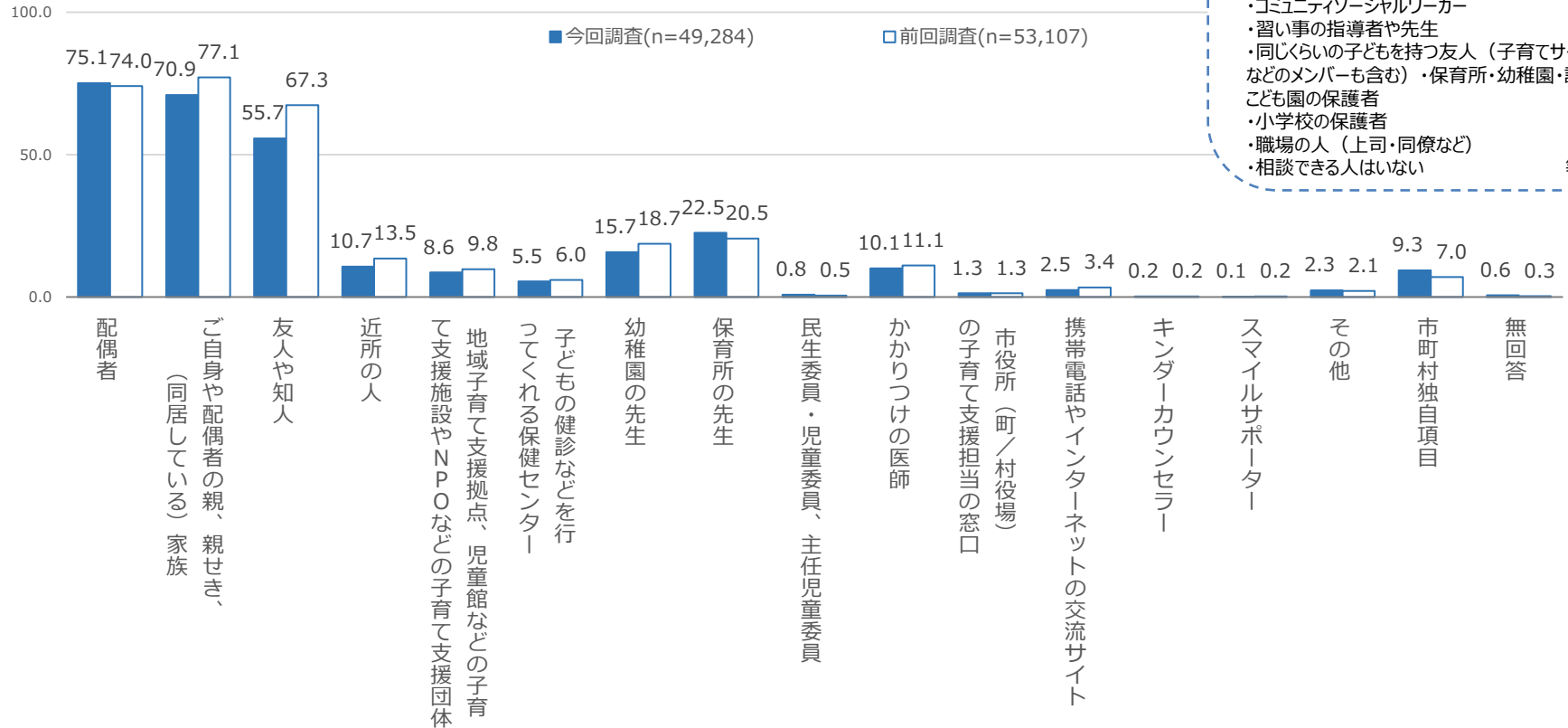


【市町村ニーズ調査】 主な調査結果

◆問12-1ー子育てや教育についての相談先

「配偶者」が75.1%で最も高く、次いで「ご自身や配偶者の親、親せき、（同居している）家族」が70.9%、「友人や知人」が55.7%となっています。

〔図表2-1-16 子育てや教育についての相談先〕



<市町村独自項目の具体例>

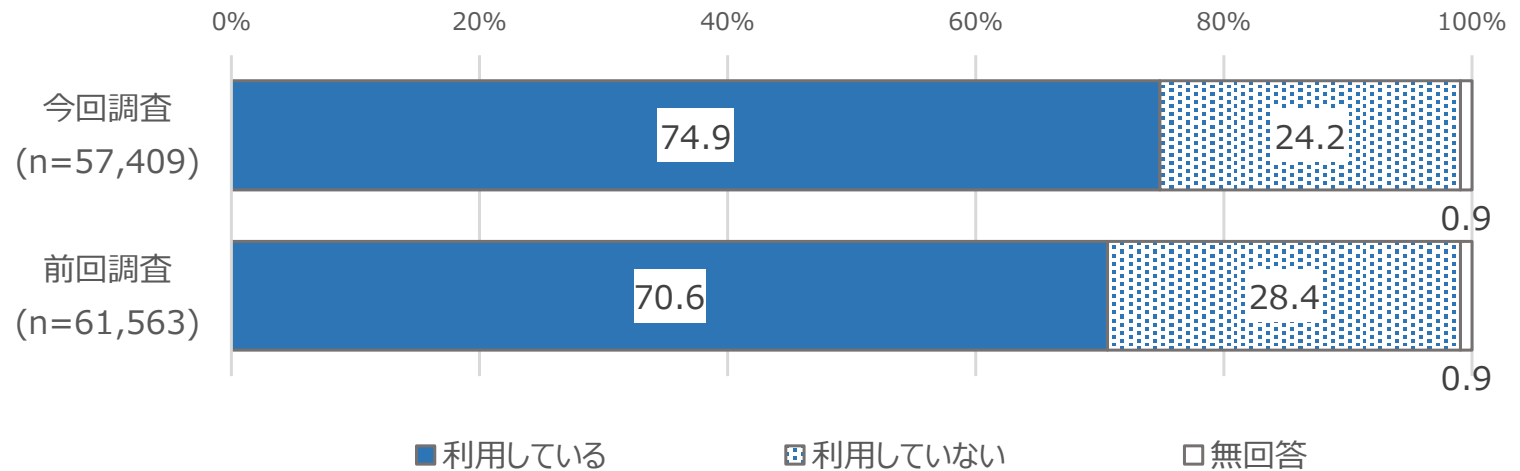
- ・認定こども園の先生
- ・小学校の先生
- ・児童発達支援センターの職員
- ・地域子育て支援拠点（つどいの広場）の職員
- ・放課後児童クラブの指導員
- ・児童館や児童文化センター
- ・社会福祉協議会（子育てサロン等の活動）
- ・コミュニティソーシャルワーカー
- ・習い事の指導者や先生
- ・同じくらいの子どもを持つ友人（子育てサークルなどのメンバーも含む）
- ・保育所・幼稚園・認定こども園の保護者
- ・小学校の保護者
- ・職場の人（上司・同僚など）
- ・相談できる人はいない
- 等

【市町村ニーズ調査】 主な調査結果

◆問18ー平日の施設やサービスの利用状況

「利用している」が74.9%、「利用していない」が24.2%となっています。

[図表2-2-1 平日の施設やサービスの利用状況]

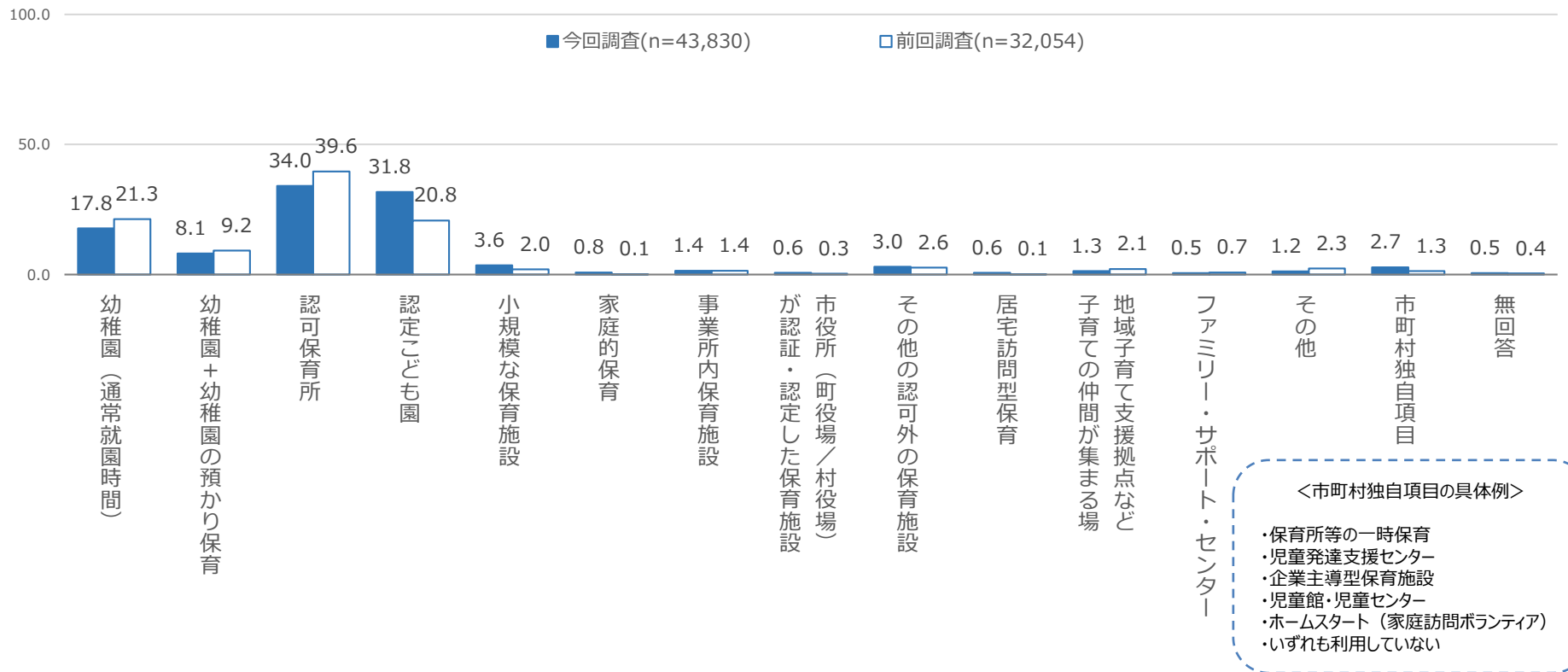


【市町村ニーズ調査】 主な調査結果

◆問18-2ー定期的に利用している施設やサービス

「認可保育所」が34.0%で最も高く、次いで「認定こども園」が31.8%、「幼稚園（通常就園時間）」が17.8%となっています。

[図表2-2-4 定期的に利用している施設やサービス]

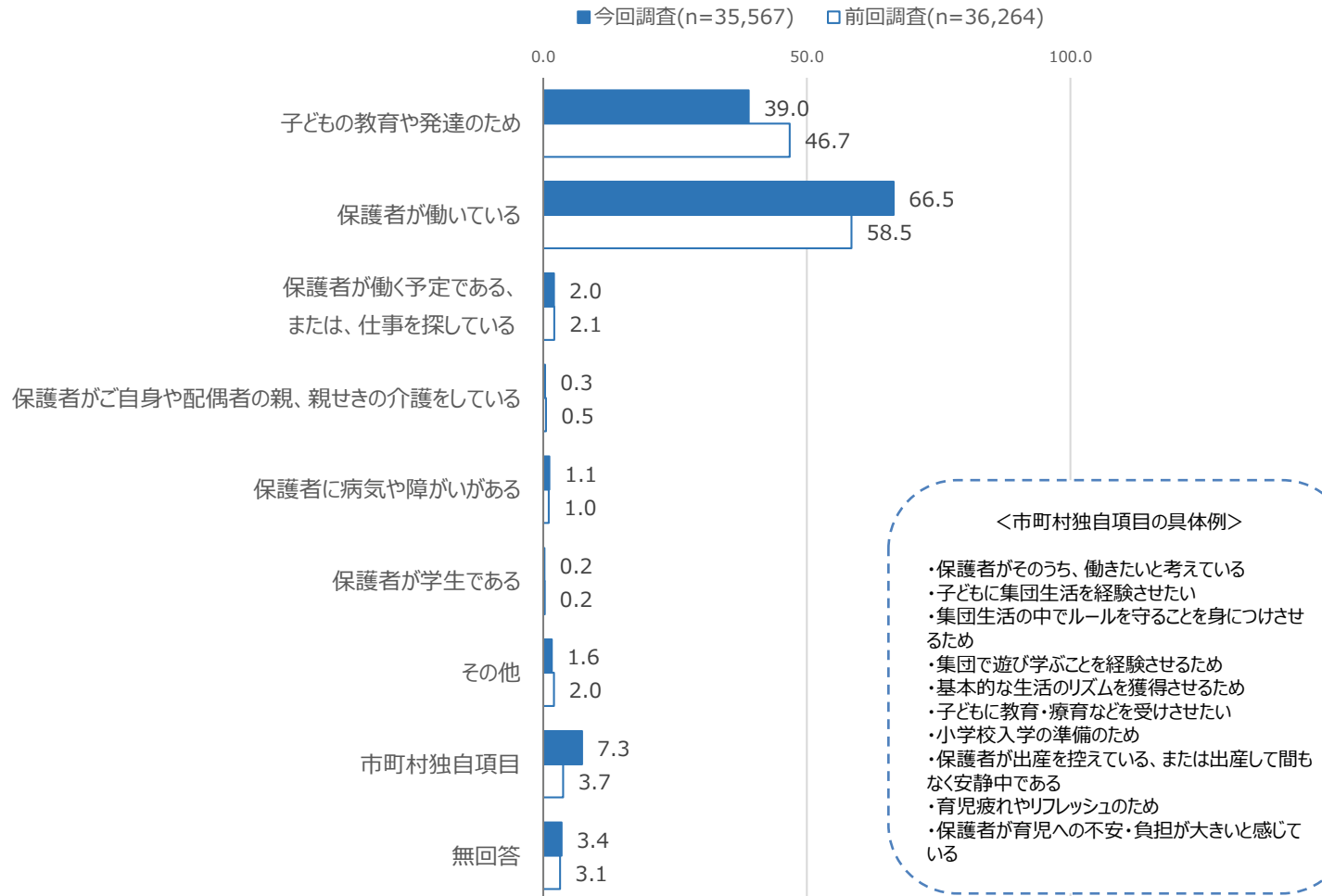


【市町村ニーズ調査】 主な調査結果

◆問18-5ー施設やサービスを利用している理由

「保護者が働いている」が66.5%で最も高く、次いで「子どもの教育や発達のため」が39.0%、「保護者が働く予定である、又は、仕事を探している」が2.0%、「保護者に病気や障がいがある」が1.1%、「保護者がご自身や配偶者の親、親せきの介護をしている」が0.3%、「保護者が学生である」が0.2%となっています。また、前回調査と比べると、「保護者が働いている」の割合が増加し、「子どもの教育や発達のため」の割合が減少しています。

[図表2-2-14 施設やサービスを利用している理由]

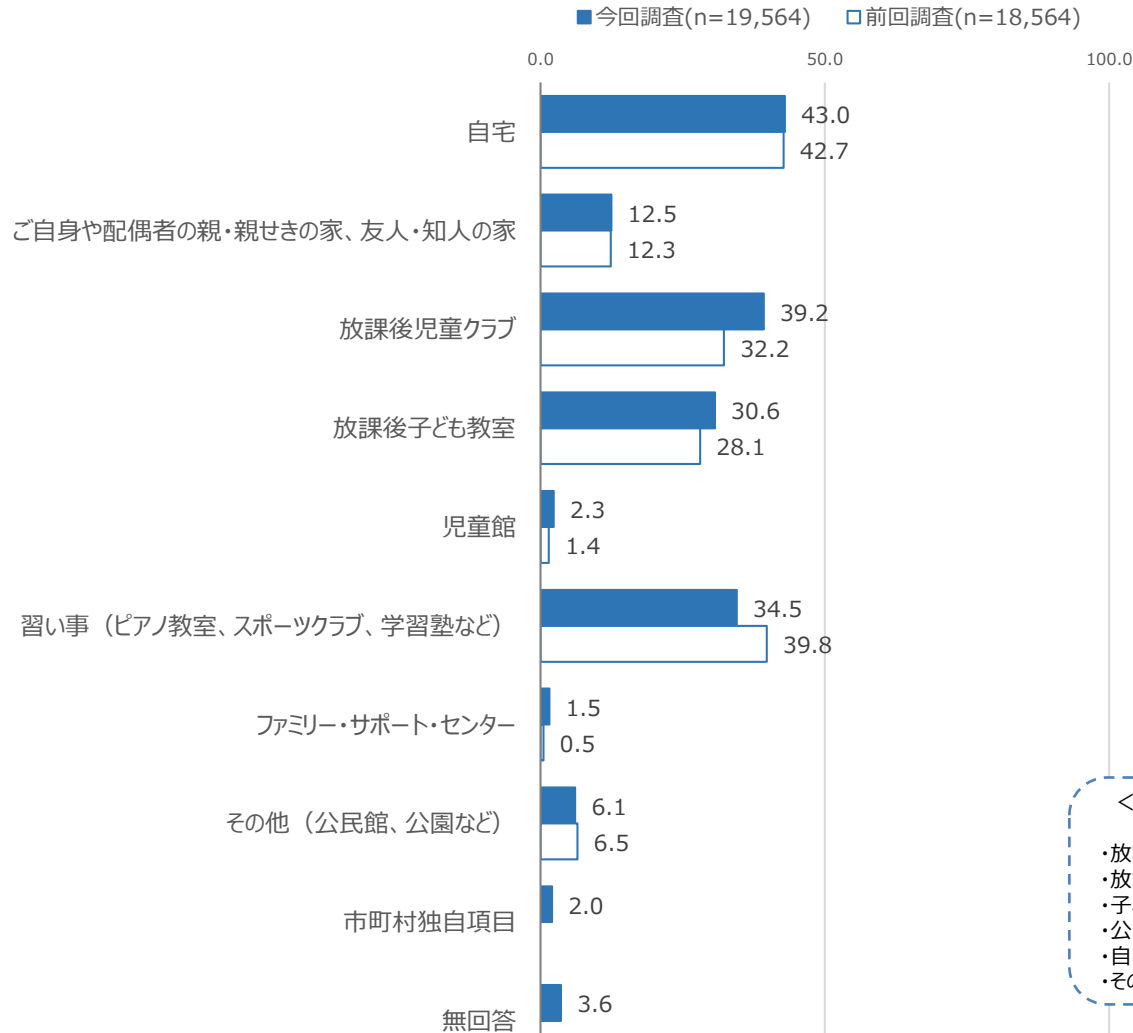


【市町村ニーズ調査】 主な調査結果

◆問27ー小学校低学年の間に放課後過ごさせたい場所

「自宅」が43.0%で最も高く、次いで「放課後児童クラブ」が39.2%、「習い事（ピアノ教室、スポーツクラブ、学習塾など）」が34.5%、「放課後子ども教室」が30.6%となっています。また、前回調査と比べると、「放課後児童クラブ」の割合が増加し、「習い事（ピアノ教室、スポーツクラブ、学習塾など）」の割合が減少しています。

[図表2-7-1 小学校低学年の間に放課後過ごさせたい場所]



<市町村独自項目の具体例>

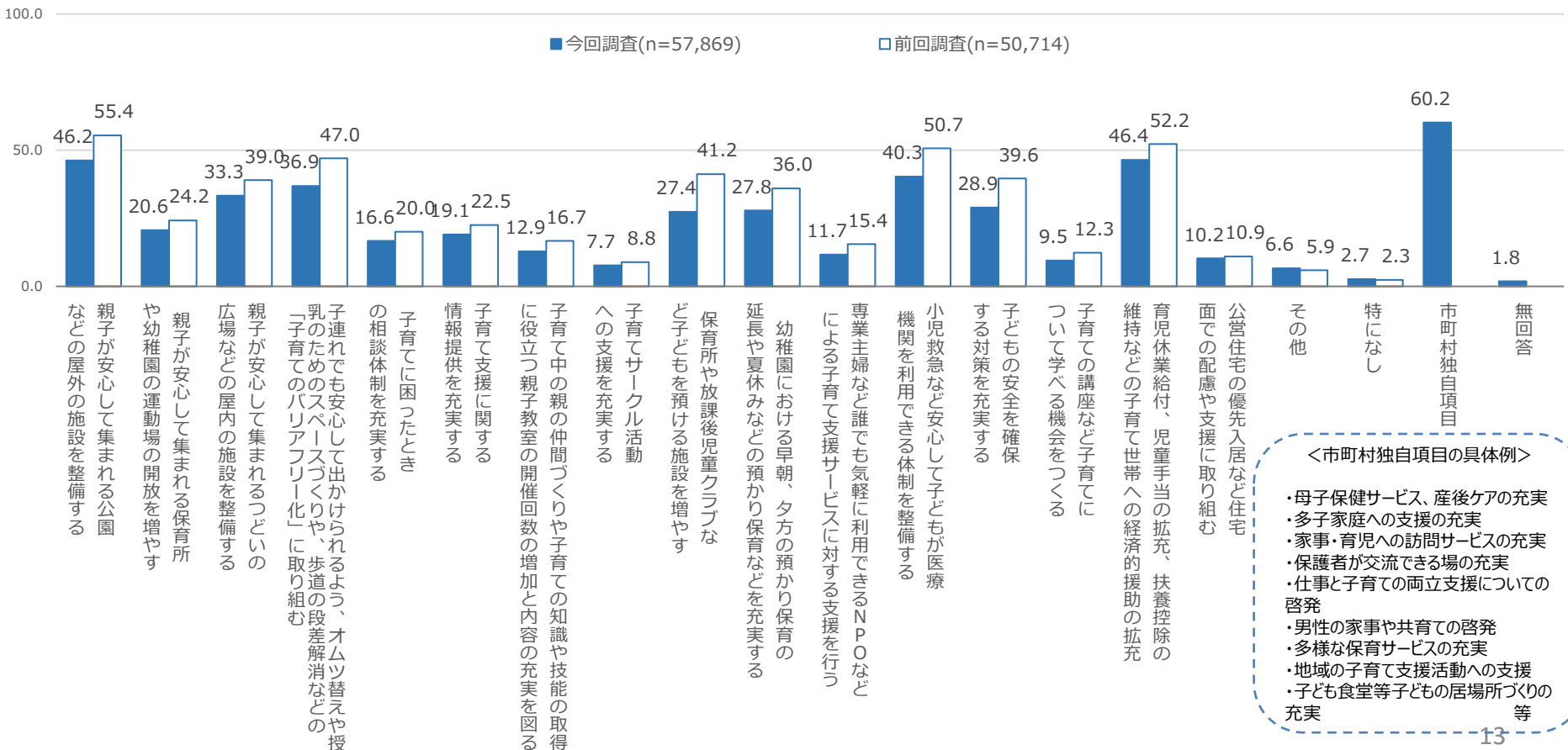
- ・放課後等デイサービス
- ・放課後児童クラブ
- ・子ども食堂などの地域の居場所
- ・公園や友達の家など
- ・自宅で留守番する
- ・その他

【市町村ニーズ調査】 主な調査結果

◆問38ー充実してほしい子育て支援サービス

「育児休業給付、児童手当の拡充、扶養控除の維持などの子育て世帯への経済的援助の拡充」が46.4%で最も高く、次いで「親子が安心して集まれる公園などの屋外の施設を整備する」が46.2%、「小児救急など安心して子どもが医療機関を利用できる体制を整備する」が40.3%、「子連れでも安心して出かけられるよう、オムツ替えや授乳のためのスペースづくりや、歩道の段差解消などの『子育てのバリアフリー化』に取り組む」が36.9%、「親子が安心して集まれるつどいの広場などの屋内の施設を整備する」が33.3%となっています。

[図表2-10-2 充実してほしい子育て支援サービス]

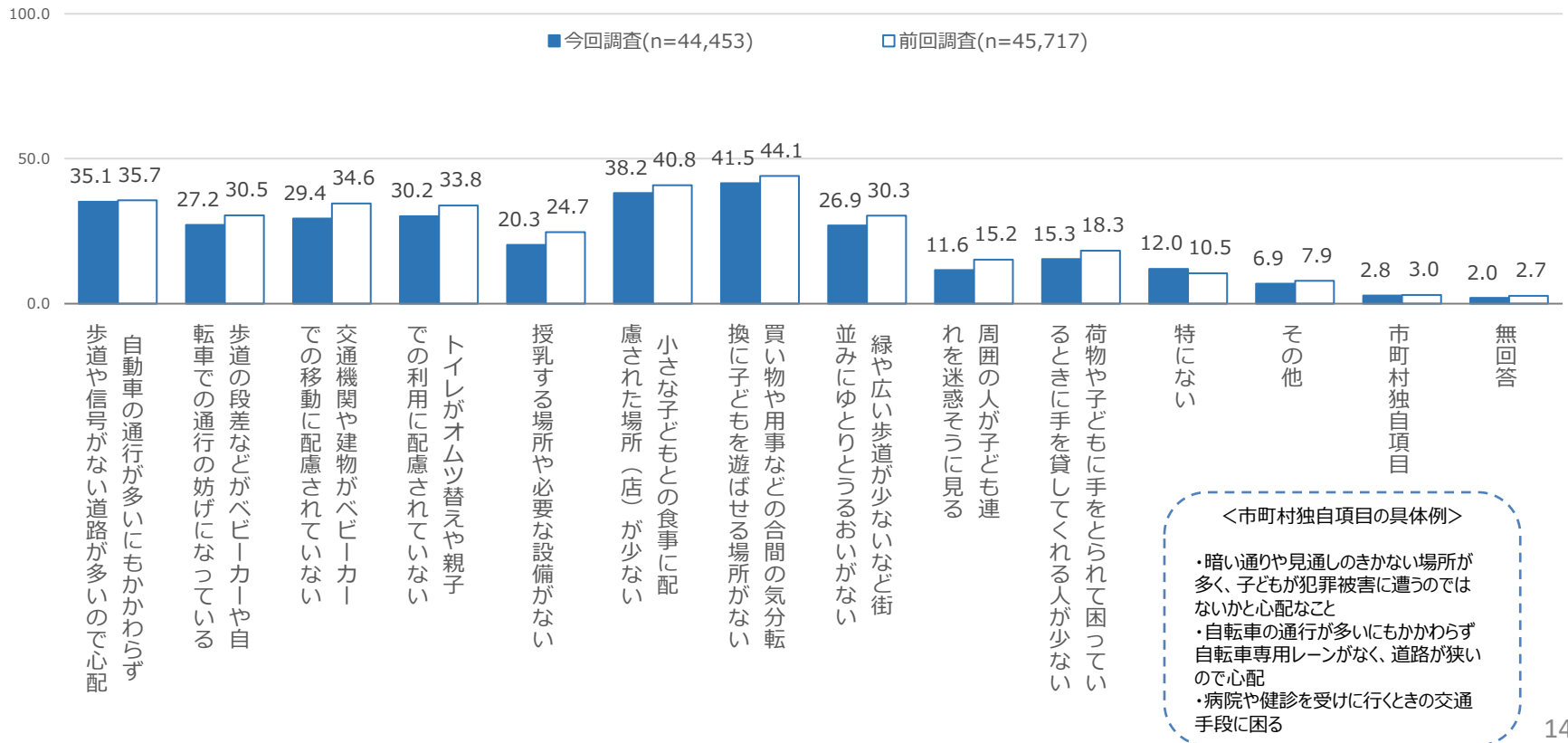


【市町村ニーズ調査】 主な調査結果

◆問40ー外出する際に困ること

「買い物や用事などの合間の気分転換に子どもを遊ばせる場所がない」が41.5%で最も高く、次いで「小さな子どもとの食事に配慮された場所（店）が少ない」が38.2%、「自動車の通行が多いにもかかわらず歩道や信号がない道路が多いので心配」が35.1%、「トイレがオムツ替えや親子での利用に配慮されていない」が30.2%、「交通機関や建物がベビーカーでの移動に配慮されていない」が29.4%、「歩道の段差などがベビーカーや自転車での通行の妨げになっている」が27.2%、「緑や広い歩道が少ないなど街並みにゆとりとるおいがない」が26.9%となっています。

[図表2-12-1 外出する際に困ること]

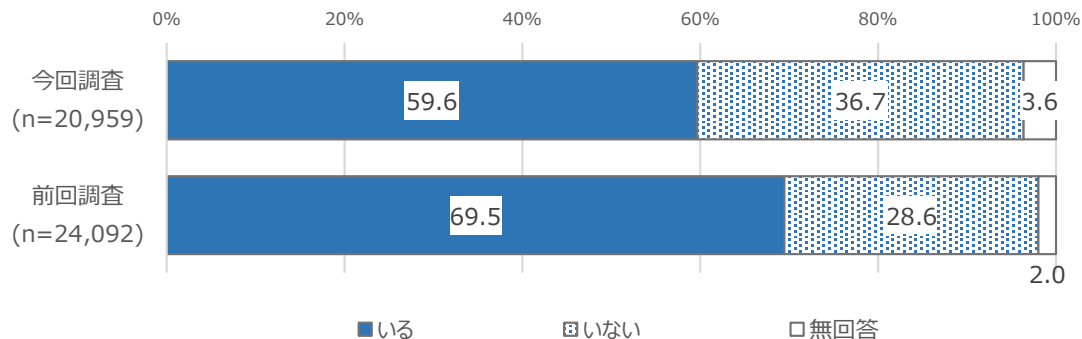


【市町村ニーズ調査】 主な調査結果

◆問43ー近所で日常的にちょっとした子どもの話や世間話をする人の有無

「いる」が59.6%、「いない」が36.7%となっています。また、前回調査と比べると、「いる」の割合が減少し、「いない」の割合が増加しています。

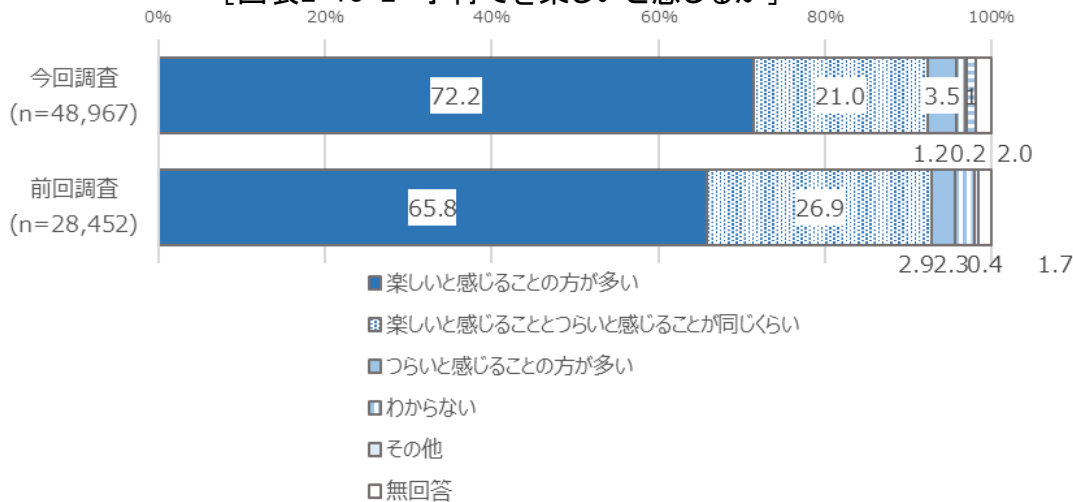
[図表2-13-1 近所で日常的にちょっとした子どもの話や世間話をする人の有無]



◆問44ー子育てを楽しんでいるか

「楽しいと感じることの方が多い」が72.2%で最も高く、次いで「楽しいと感じることとつらいと感じることが同じくらい」が21.0%、「つらいと感じることの方が多い」が3.5%、「わからない」が1.2%となっています。また、前回調査と比べると、「楽しいと感じることの方が多い」の割合が増加し、「楽しいと感じることとつらいと感じることが同じくらい」の割合が減少しています。

[図表2-13-2 子育てを楽しんでいるか]

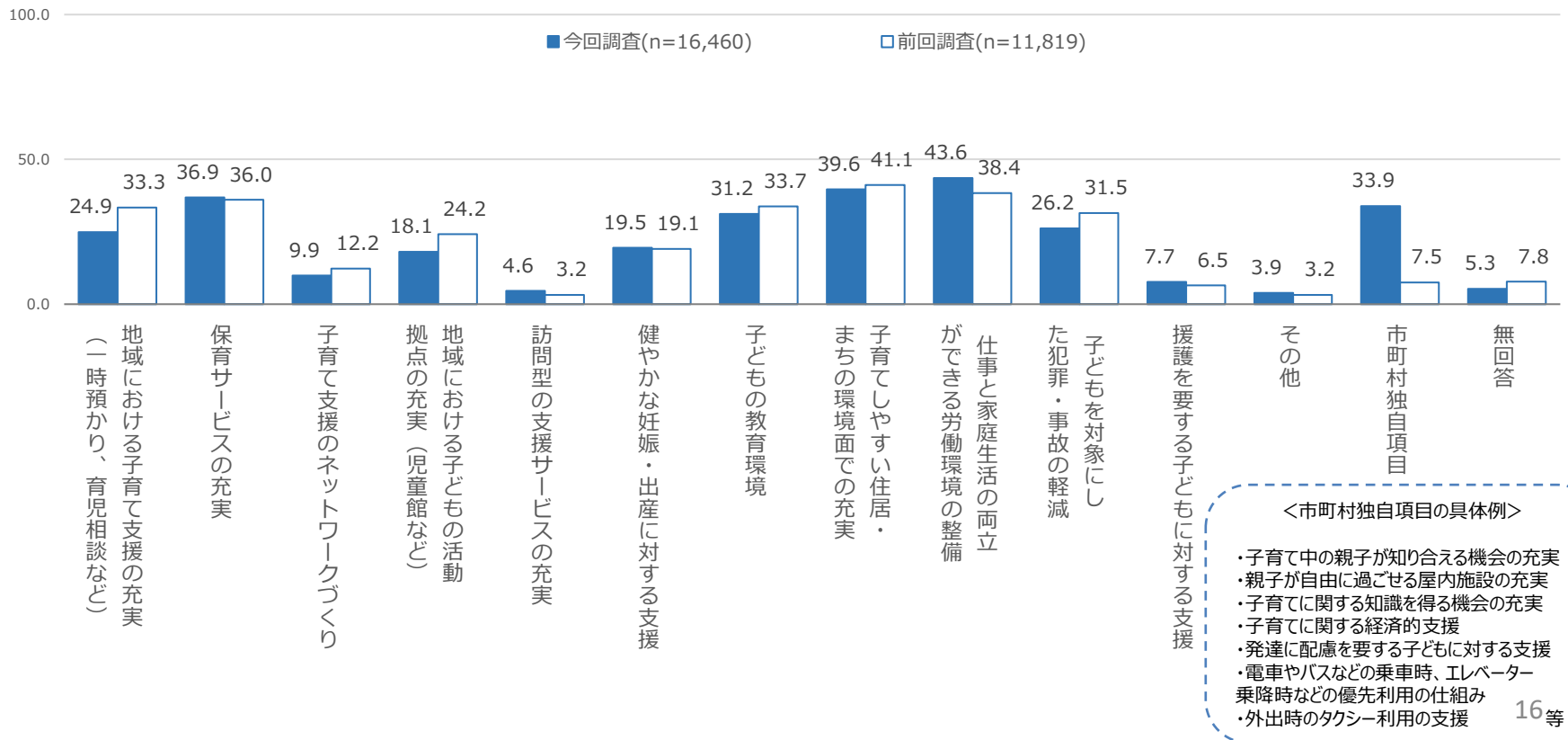


【市町村ニーズ調査】 主な調査結果

◆問44-1ー子育てを楽しんでいる人の有効な子育て支援・対策

「仕事と家庭生活の両立ができる労働環境の整備」が43.6%で最も高く、次いで「子育てしやすい住居・まちの環境面での充実」が39.6%、「保育サービスの充実」が36.9%、「子どもの教育環境」が31.2%、「子どもを対象にした犯罪・事故の軽減」が26.2%、「地域における子育て支援の充実（一時預かり、育児相談など）」が24.9%となっています。

[図表2-13-3 子育てを楽しんでいる人の有効な子育て支援・対策]

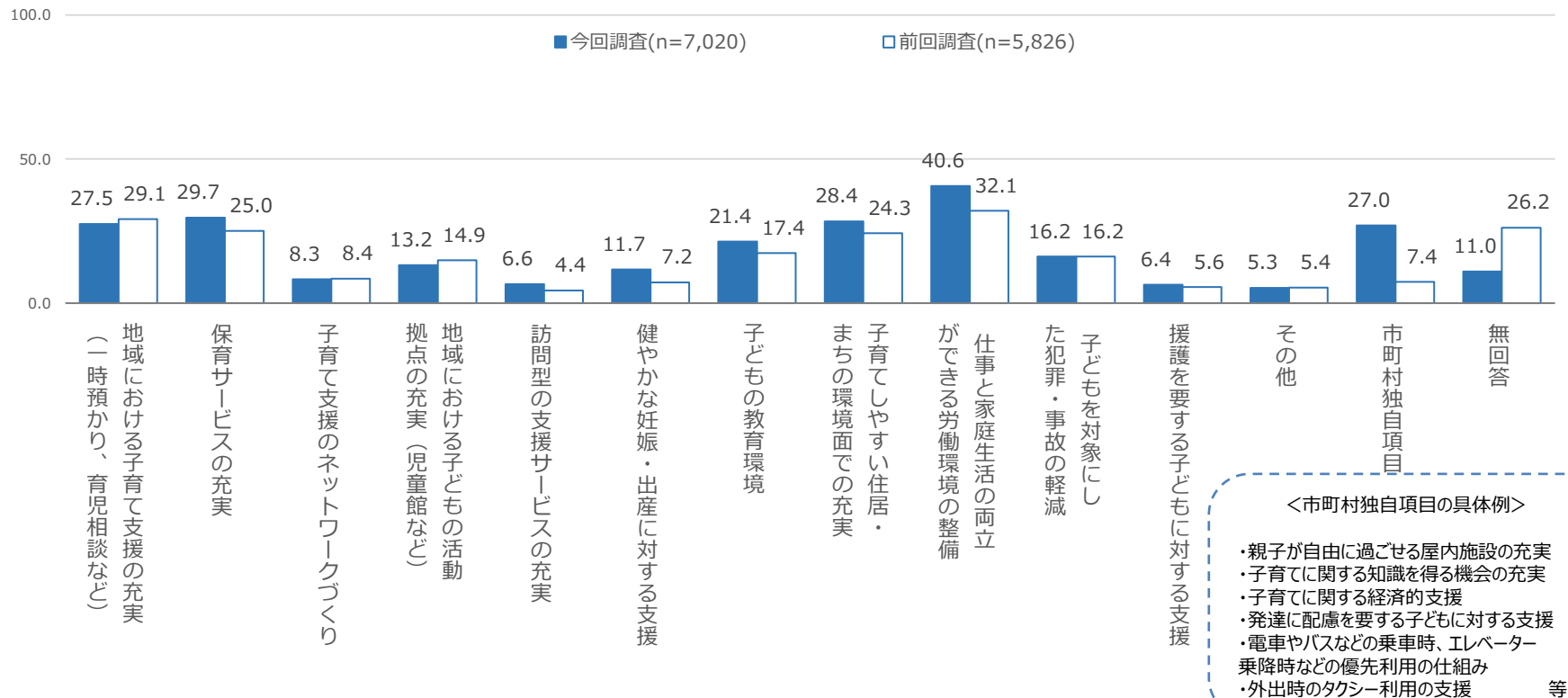


【市町村ニーズ調査】 主な調査結果

◆問44-2-子育てのつらさを解消するために必要な支援・対策

「仕事と家庭生活の両立ができる労働環境の整備」が40.6%で最も高く、次いで「保育サービスの充実」が29.7%、「子育てしやすい住居・まちの環境面での充実」が28.4%、「地域における子育て支援の充実（一時預かり、育児相談など）」が27.5%となっています。

[図表2-13-4 子育てのつらさを解消するために必要な支援・対策]



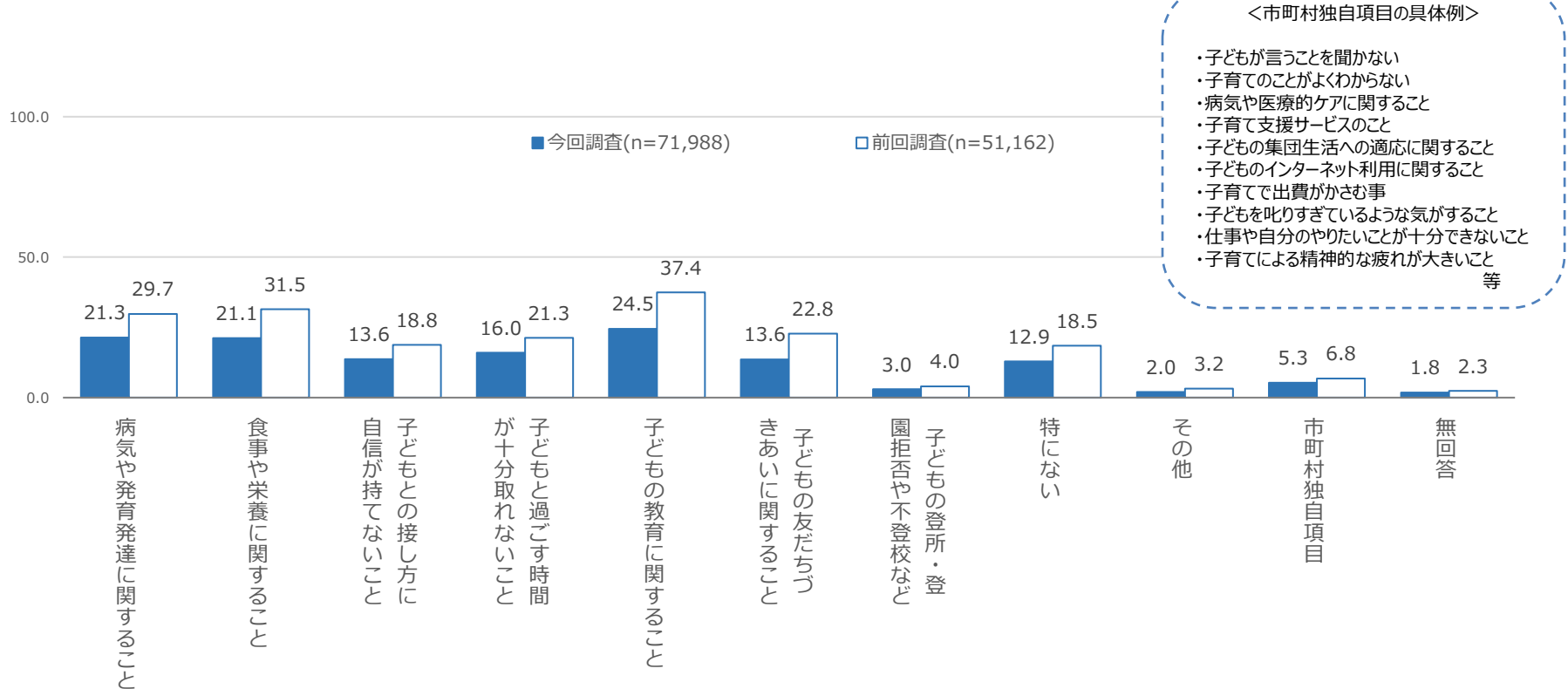
【市町村ニーズ調査】 主な調査結果

◆問45－日常悩んでいること、気になること

(1) 子どもに関すること

「子どもの教育に関すること」が24.5%で最も高く、次いで「病気や発育発達に関すること」が21.3%、「食事や栄養に関すること」が21.1%となっています。

[図表2-13-5 日常悩んでいること、気になること]



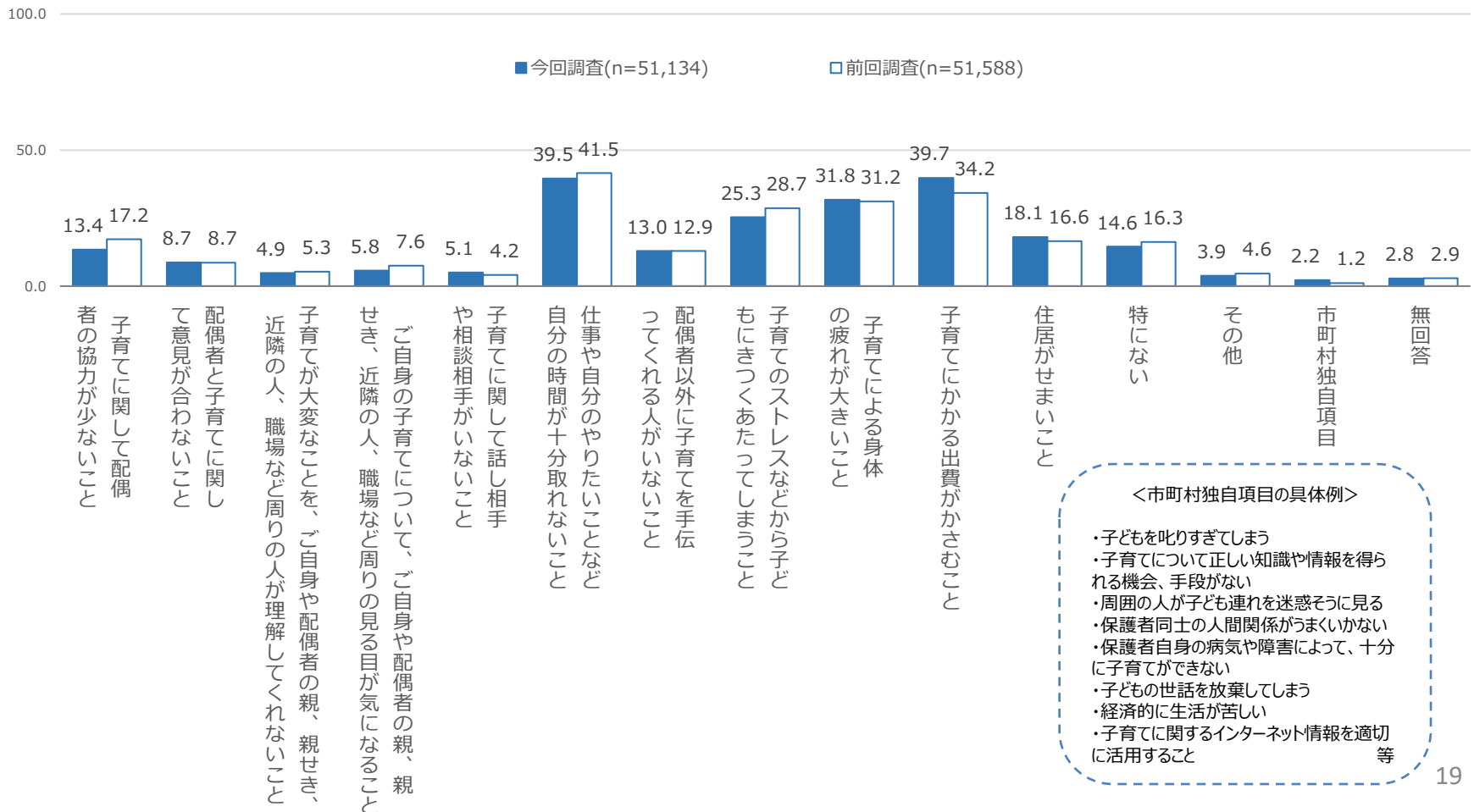
【市町村ニーズ調査】 主な調査結果

◆問45ー日常悩んでいること、気になること

(2) ご自身に関すること

「子育てにかかる出費がかさむこと」が39.7%で最も高く、次いで「仕事や自分のやりたいことなど自分の時間が十分取れないこと」が39.5%、「子育てによる身体の疲れが大きいこと」が31.8%となっています。

【図表2-13-6 日常悩んでいること、気になること】



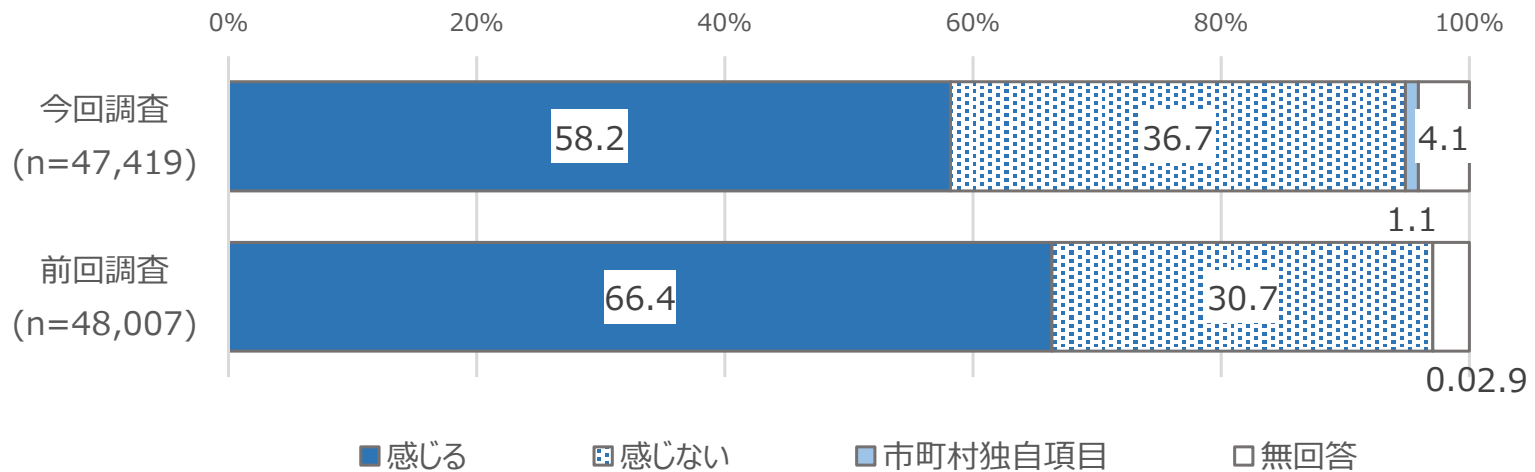
【市町村ニーズ調査】 主な調査結果

◆問46—子育てが地域の人に支えられていると感じるか。特に誰から支えられていると感じるか

(1) 支えられていると感じるか

「感じる」が58.2%、「感じない」が36.7%となっています。また、前回調査と比べると、支えられていると「感じる」割合が減少し、支えられていると「感じない」割合が増加しています。

[図表2-13-7 子育てが地域の人に支えられていると感じるか]



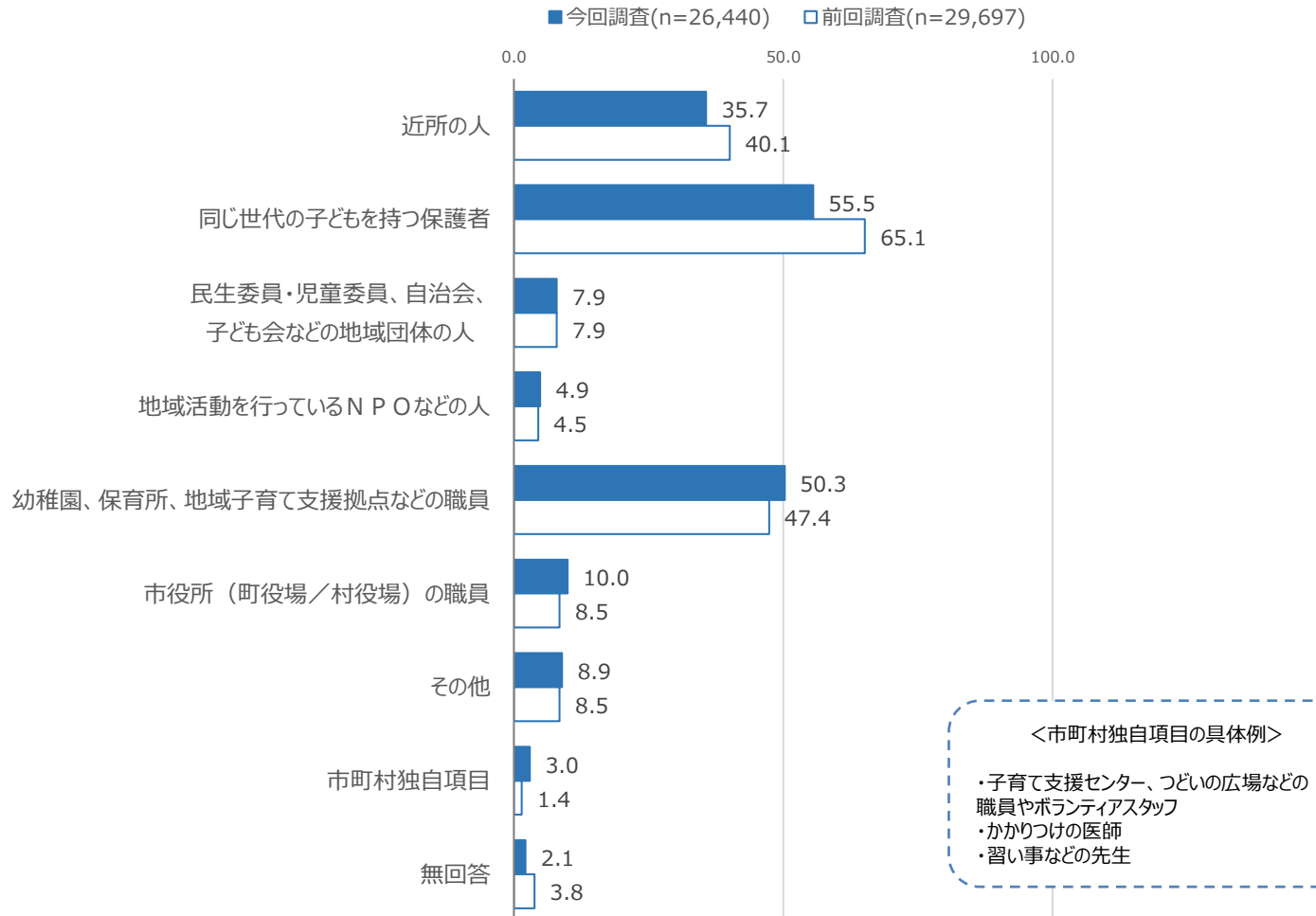
<市町村独自項目の具体例>
・どちらでもない
・未回答

【市町村ニーズ調査】 主な調査結果

◆問46ー子育てが地域の人に支えられていると感じるか。特に誰から支えられていると感じるか
(2) 特に誰から支えられていると感じるか

「同じ世代の子どもを持つ保護者」が55.5%で最も高く、次いで「幼稚園、保育所、地域子育て支援拠点などの職員」が50.3%、「近所の人」が35.7%となっています。また、前回調査と比べると、「同じ世代の子どもを持つ保護者」と「近所の人」の割合が減少し、「幼稚園、保育所、地域子育て支援拠点などの職員」の割合が増加しています。

[図表2-13-8 特に誰から支えられていると感じるか]



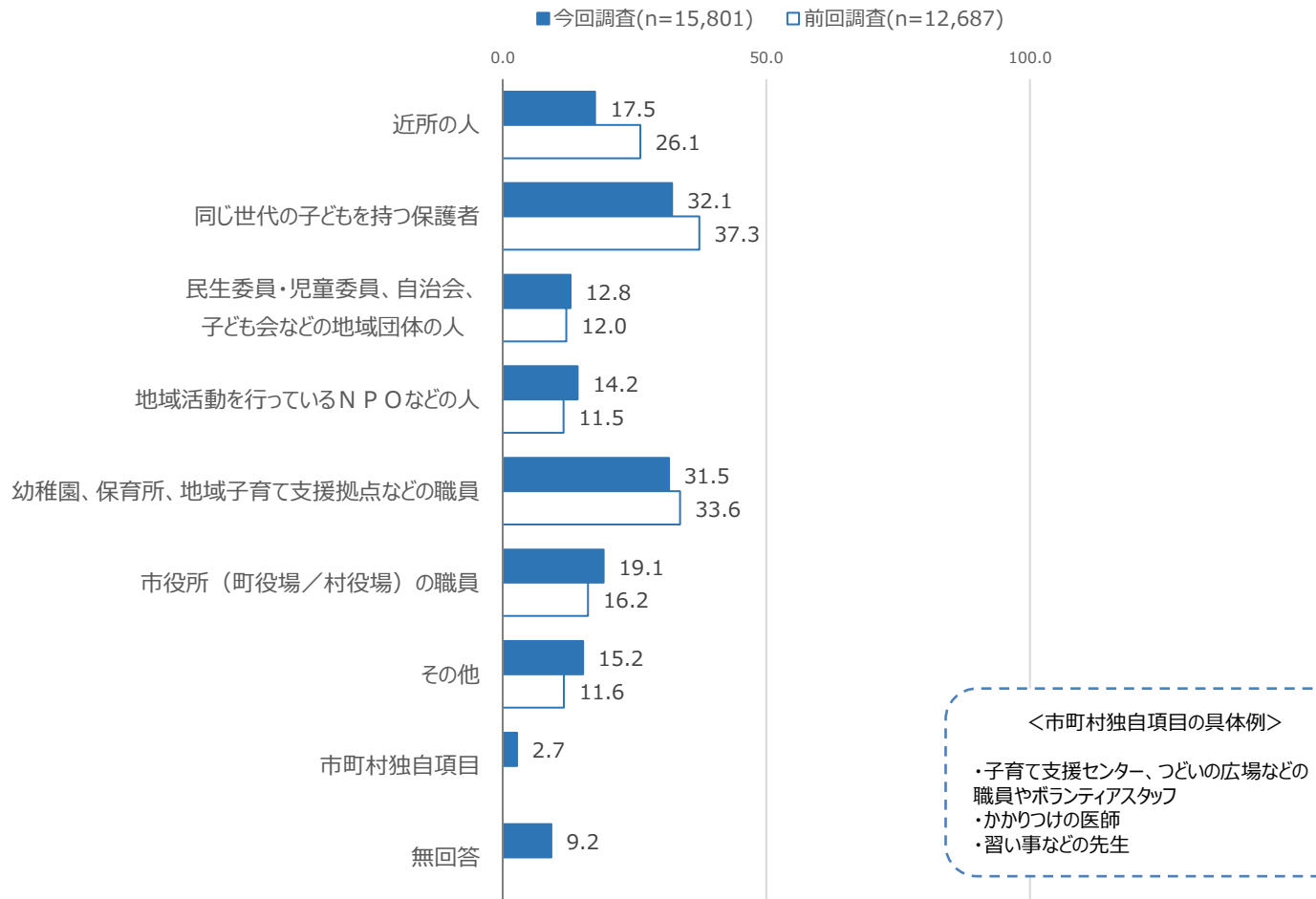
【市町村ニーズ調査】 主な調査結果

◆問46ー子育てが地域の人に支えられていると感じるか。特に誰から支えられていると感じるか

(3) 誰から支えてほしいと感じるか

「同じ世代の子どもを持つ保護者」が32.1%で最も高く、次いで「幼稚園、保育所、地域子育て支援拠点などの職員」が31.5%、「市役所（町役場／村役場）の職員」が19.1%、「近所の人」が17.5%、「その他」が15.2%、「地域活動を行っているNPOなどの人」が14.2%、「民生委員・児童委員、自治会、子ども会などの地域団体の人」が12.8%となっています。

[図表2-13-9 誰から支えてほしいと感じるか]



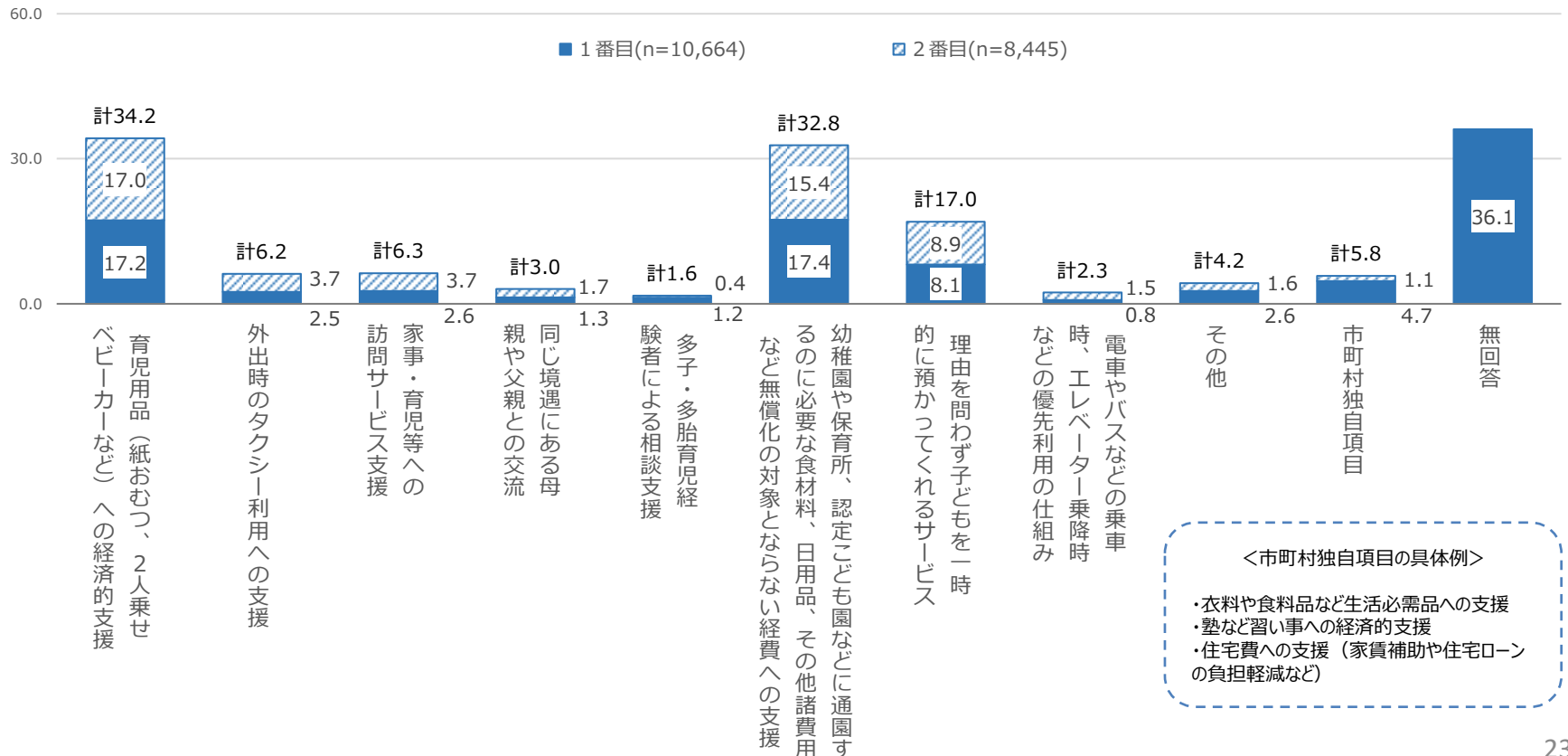
【市町村ニーズ調査】 主な調査結果

◆問47ー子育ての負担を軽減するのに有効だと思われる支援やサービス

1番目は、「幼稚園や保育所、認定こども園などに通園するのに必要な食材料、日用品、その他諸費用など無償化の対象とならない経費への支援」が17.4%で最も高く、次いで「育児用品（紙おむつ、2人乗せベビーカーなど）への経済的支援」が17.2%、「理由を問わず子どもを一時的に預かってくれるサービス」が8.1%となっています。

1番目と2番目の合計では、「育児用品（紙おむつ、2人乗せベビーカーなど）への経済的支援」が34.2%で最も高く、次いで「幼稚園や保育所、認定こども園などに通園するのに必要な食材料、日用品、その他諸費用など無償化の対象とならない経費への支援」が32.8%、「理由を問わず子どもを一時的に預かってくれるサービス」が17.0%となっています。

[図表2-13-10 子育ての負担を軽減するのに有効だと思われる支援やサービス]



第2章 大阪府における現状と課題について

2. 就学前・就学児童の子育てに対する家庭のニーズ(まとめ)

子育ての悩み・困っていること

収入が増えれば子どもを持ちたい、子育てにかかる出費がかさむ、自分の時間が十分とれない、子どもを遊ばせる場所がない、小さな子どもとの食事に配慮された場所(店)が少ない、歩道や信号がない道路が多いといった意見が多くなっています。

もう1人以上子どもを持ちたい場合に、生きたいと思う環境

- 収入が増えれば持ちたい (48.7%)
- 保育所など子どもを預かってくれる環境があれば持ちたい (8.4%)

子育て当事者が日常悩んでいること、気になること

- 子育てにかかる出費がかさむこと (39.7%)
- 仕事や自分のやりたいことなど自分の時間が十分取れないこと (39.5%)
- 子育てによる体の疲れが大きいこと (31.8%)

外出する際に困ること

- 子どもを遊ばせる場所がない (41.5%)
- 小さな子どもとの食事に配慮された場所(店)が少ない (38.2%)
- 歩道や信号がない道路が多いので心配 (35.1%)

どんな支援やサービスを求めているか

仕事と家庭生活の両立ができる労働環境の整備、子育て世帯への経済的援助の拡充、親子が安心して集まれる公園など屋外の施設整備、子育てのバリアフリー化、育児用品への経済的支援、通園に必要な経費への支援を求める意見が多くなっています。

子育てのつらさを解消するために必要な支援・対策

- 仕事と家庭生活の両立ができる労働環境の整備 (40.6%)
- 保育サービスの充実 (29.7%)
- 子育てしやすい住居・まちの環境面での充実 (28.4%)

充実してほしい子育て支援サービス

- 子育て世帯への経済的援助の拡充 (46.4%)
- 親子が安心して集まれる公園など屋外の施設整備 (46.2%)
- 子育てのバリアフリー化への取組 (36.9%)

子育ての負担軽減に有効と思われる支援・サービス

- 育児用品への経済的支援 (34.2%)
- 幼稚園や保育所、認定こども園などの通園に必要な経費への支援 (32.8%)
- 子どもを一時的に預かってくれるサービス (17%)